



談話室



『新しい交通基盤の有無は、地域の盛衰を決する』
～ 空港のある静岡県へ向けて ～

2 需要予測を巡る議論

< 需要予測結果 >

国土交通省で新たな需用予測の考え方が示されたこと等から、県では、交通工学や経済の専門家の方々に構成する「静岡空港需要等検討委員会」を設置して、需要予測の再試算を行いました。

この結果、静岡空港の需要は、国際線と国内線を合わせて、129万人から141万人、国内線では、97万人から109万人との報告をいただきました。県では、これを受けて、経済成長率や便数の設定状況等を考慮して、国内線は106万人、国際線は32万人を需要予測値として採用しました。

今回の需要予測は、最新のデータを活用し、便数、割引運賃などを加味した新たな予測手法を用いて、試算を行っていますので、今までの需要予測よりも、さらに精度が高まったものと考えています。

< リージョナルジェット機による路線就航 >

今回の需要予測では、確実に採算が見込まれると考えられる国内4路線（札幌、福岡、鹿児島、那覇）により算定しました。しかし、今日、60人乗り程度のリージョナルジェット機の利用が年々増加しています。中・大型機の就航が難しい路線でも、リージョナルジェット機による路線開設の可能性は大いにあります。国内4路線以外にも、小松、松山、長崎などの地方空港をはじめ、成田や関西空港への路線就航を検討しており、これらの実現により、さらに利用者の増加が見込まれます。

< 需要は、人口と経済規模により生じるもの >

静岡県は、人口が377万人、県内総生産が15兆9,500億円であり、ともに全国第10位です。ここで、空港が整備されている他の地域と静岡県の基礎データを比較してみると、次のとおりです。

主要地方空港利用者の動向と所在県の人口・県内総生産

- 航空需要と人口・県内総生産との間には相関関係が見られる。
- このことから、主要な地方空港所在県の利用状況をもとに静岡空港の利用者数をみると以下のとおりとなる。
- なお、地方空港間の航空利用者数は、平成4年度から13年度まで、平均3.5%の伸びを示している。

(単位:千人)

県名	人口	県内総生産	平成13年度 利用者数 総計	幹線 利用者数	地方路線 利用者数	静岡空港 相当値
宮城 (仙台空港)	237万人 (1.6)	8兆7,235億円 (1.8)	2,827	1,352	1,475	×1.6 236万人
石川 (小松空港)	118万人 (3.2)	4兆5,251億円 (3.5)	2,519	2,043	476	×3 143万人
広島 (広島空港) (広島西空港)	288万人 (1.3)	11兆1,855億円 (1.4)	3,118	2,318	778	×1.3 101万人
宮崎	117万人 (3.2)	3兆5,627億円 (4.5)	3,248	2,473	775	×3 233万人
鹿児島	179万人 (2.1)	5兆4,521億円 (2.9)	5,871	3,853	1,138	×2 228万人
静岡	377万人	15兆9,500億円	—	—	1,060	106万人

()は静岡県との対比

地方路線は、東京、名古屋、大阪、離島を除いた路線の平成13年度実績。

静岡県は、国内線需要予測(札幌、福岡、鹿児島、那覇)

<出典>

○人口:平成12年国勢調査

○県内総生産:平成12年度の県民経済計算について

例えば、仙台空港は平成13年の実績で282万人の利用者がいますが、このうち、大阪、名古屋の幹線利用者が135万人です。地方路線だけでは、147万5千人の利用者がいます。宮城県の人口は、237万人で、県内総生産は8兆7,235億円です。比較してみますと、静岡県は宮城県より、人口で1.6倍、県内総生産で1.8倍の規模となります。

次に、小松空港は251万人の利用客のうち、東京便が204万人で、6路線の地方路線を47万6千人が利用しています。小松空港のある石川県の人口は118万人で、県内総生産額は4兆5,251億円です。静岡県は、石川県より人口で3.2倍、県内総生産で3.5倍の規模になります。

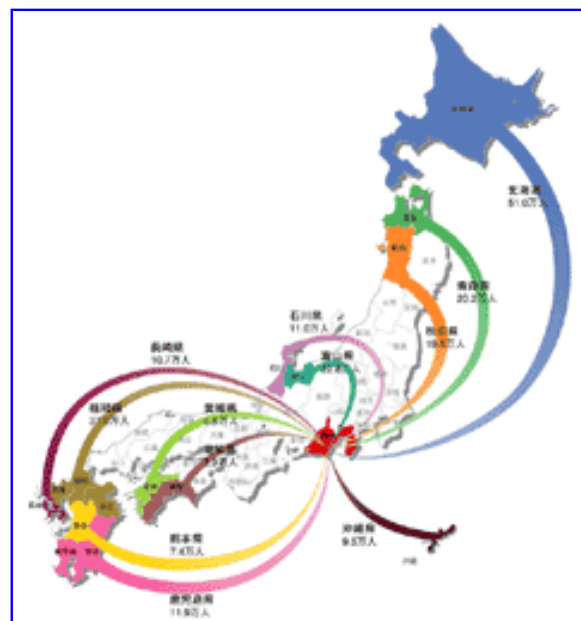
広島県には、広島空港と広島西空港があり、合計すると、全体で311万人の利用客がおり、このうち231万人が東京便利用者で、地方路線は77万8千人となります。広島県の人口は288万人で、県内総生産が11兆1,855億円ですから、静岡県は人口で1.3倍、県内総生産で1.4倍あるわけです。

もちろん、仙台、広島は東北、中国地方の中核都市ですから、単純な比較はできません。ただ、航空需要というものは、人口とか経済活動に比例して発生するのも事実であり、他の地方空港の実績から判断しても、静岡空港は100万人を超える利用者が見込まれると想定されます。

また、静岡空港がない現在でも、静岡県と北海道との間では約51万人、九州、沖縄の間では約95万人の人が交流しています。静岡空港の航空圏域の対象となる国内遠隔地とは、年間約230万人が行き来しているのです。

このように静岡県の人口や経済力、人々の流動量の実績、類似の地方空港の利用者の推移等から判断すれば、静岡空港の需要予測は、決して過大ではなく、十分に達成可能な数字であ

ると考えています。



[クリックで拡大画像が見られます。](#)

[《トップページ》](#)

- [1 改めて静岡空港の意義](#)
- [2 需要予測を巡る議論](#)
- [3 時代の主流となる交通基盤の有無は、地域の盛衰を決する](#)
- [4 残された用地の解決に向けて](#)
- [5 今なすべきこと](#)

談話室

知事室トップページ